

会計学科

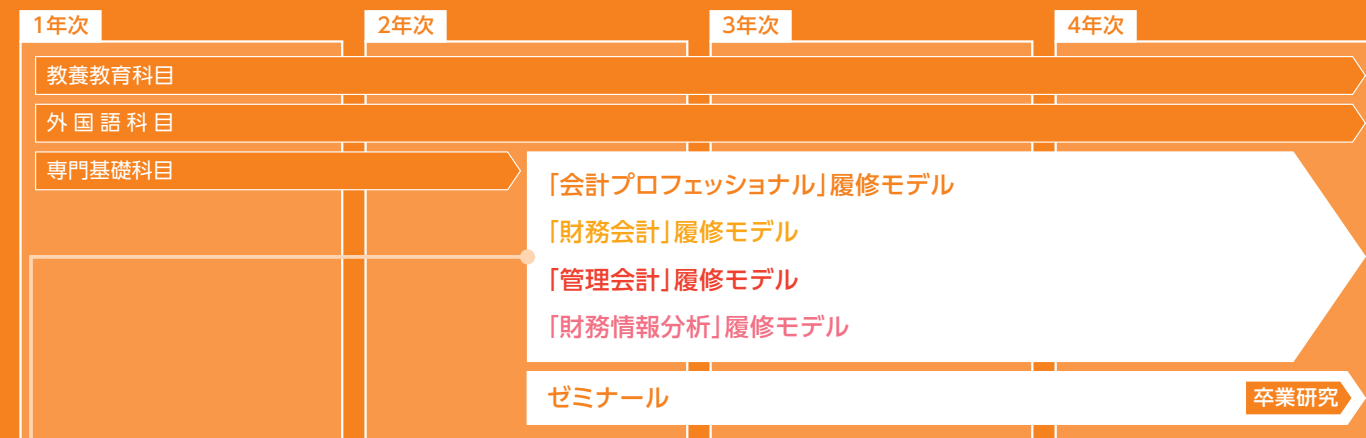
Department of Accounting



会計情報スペシャリストを養成する

商学部の会計学科は、社会科学の一分野である会計学について学ぶ学科です。そこでは、企業活動を複式簿記のルールに従って、いかに合理的に数値で表現しそれを必要とする人に伝達するか、さらに、その結果にいかに信頼性を保証するか、そして、その内容をいかに企業経営に役立てるか、また、その情報を分析していかに企業活動の実態を明らかにするかをテーマとします。

4年間の学習の流れ



会計学科の履修モデル

2つの分野をバランスよく学べる4つの履修モデル

企業活動に関連する会計は、大きく外部報告を目的とした「財務会計」と内部管理を目的とした「管理会計」の2つの分野に分かれています。会計学科の学生は、この2つの分野をバランスよく学習しなければなりません。会計学科では、会計学の知識をいかに将来の自分の進路に生かすかという視点から、4つの履修モデルを提案しています。どのテーマの知識を生かした職業分野のスペシャリストになるか、それは皆さん自身が決定するのです。

「会計プロフェッショナル」履修モデル P15

将来の職業的進路として、公認会計士、税理士、国税専門官など、会計学の知識を身につけて将来、職業的会計専門家として社会・企業と関係していこうと希望している学生のための履修モデルです。

「財務会計」履修モデル P16

企業の経理や財務部門などに勤務し、主として資本市場向けの会計報告書作成業務の専門家を将来志向する学生のための履修モデルです。

「管理会計」履修モデル P17

企業の製造関連部門や経営管理部門などで、会計学の専門知識を活用できる生産管理責任者や投資意思決定分析などにも精通する経営者を将来志向する学生のための履修モデルです。

「財務情報分析」履修モデル P18

シンクタンクや企業格付け、コンサルティング関連部門に従事し、会計情報を利用して、企業活動戦略の策定や企業外部からの企業活動分析を行う専門家を将来志向する学生のための履修モデルです。



柳 裕治 教授
YANAGI Yuji

「会計力」を身につけ、社会で活躍しよう!

最近のビジネスパーソンには、「会計力」の重要性が特に指摘されています。会計力をもつということは、会計理論や会計記録技術を学ぶだけでなく、会計情報を分析・活用できる能力を身につけるということです。

会計学科では、会計の基礎から高度な会計力を身につけるための充実したカリキュラムと教員スタッフによる会計教育を提供しています。簿記会計の基礎知識・技能、国際会計基準の知識、会社経営・取引等に関する法律知識、税法に関する知識、会計情報の分析能力、証券投資情報の分析能力など広く修得することができます。当学科で学ぶことにより、専門的職業としての公認会計士・税理士、国税専門官、経営・投資コンサルタント、経営者、会社の財務部門のスタッフなどに必要な会計・財務・税務・情報などに関する専門知識の修得・資格取得が可能です。

社会では、会計力を身につけたビジネスパーソンの活躍の場がますます広がっています。会計学科は、皆さんの夢の実現をサポートします。がんばれ!



私のゼミ! (柳ゼミナール) 安田さつきさん(卒業生)



柳ゼミの研究内容は「税法と税務会計」です。ゼミ活動はいつも明るく行われています。普段は会計学・税法に関する基礎的文献をゼミ生各々がまとめて報告し、質疑応答をしていますが、4年次は卒業論文、3年次は共同論文の作成にも取り組みます。テーマは難しいのですが、集中的に内容の濃い勉強をすることで、基礎となる知識を身につけることができます。

私は、国税専門官をめざしていたので、税法の基礎を学びたいと柳ゼミに参加しました。ゼミには税理士、公認会計士、国税専門官、金融系企業などを志望する人が多く、仲間同士で情報交換もできて大変心強く感じました。さらに在校生同士のつながりだけでなく、OB・OGおよび大学院生とも多くの交流があるので、第一線で活躍されている方々にいろいろと教えていただく機会にも恵まれています。ぜひ柳ゼミで学んでみてはいかがでしょうか。(国税専門官試験合格)

会計学科に所属する 教員のゼミナールテーマ (50音順)

安藤 英義	会計(学)の系統的探求
伊藤 和憲	戦略の策定と実行のための 管理会計
植田 敦紀	環境会計の探究 -サステナビリティ社会のための会計-
内野 里美	財務情報を用いた企業分析
奥村 輝夫	原価計算、原価管理を主とする 管理会計
奥村 紀夫	財務会計の研究
国田 清志	財務会計の理論と 現代企業会計の研究
黒川 保美	財務会計の研究
佐々木重人	財務会計の理論、制度 および歴史研究
佐藤 文雄	財務会計論の研究
竹本 達広	企業の財務分析と財務管理
建部 宏明	経営原価計算論研究 -マネジメントのための原価計算を学ぶ-
西居 豪	マネジメント・コントロールの研究
菱山 淳	財務会計の理論と制度
柳 裕治	税法・税務会計の研究
山内 暁	会計理論の考究 -現代的視点から会計の将来を展望する-

※他コースのゼミナールや、マーケティング学科で紹介するゼミナールも受講可能です。
※テーマについては変更することもあります。

先輩たちは、こんな卒論を書いている

- 「高等学校学習指導要領(解説)」から見る簿記・会計科目の変遷
- SNS業界の分析~DeNAとGREEの比較~
- 現代企業における予算管理に関する考察
- 環境会計の発展と定義
- 中小企業における情報サーバーの構築及び保守・運用
- 時価評価凍結の問題点から見る会計の本質
- Google社の経営分析
- IFRSの導入が我が国の会計制度に及ぼす影響
- 消費税制度の国際比較考察
- ブランドの価値評価
~会計およびマーケティングの側面からの考察~

「会計プロフェッショナル」履修モデル

国家試験合格をめざして、
一つひとつを着実にマスター

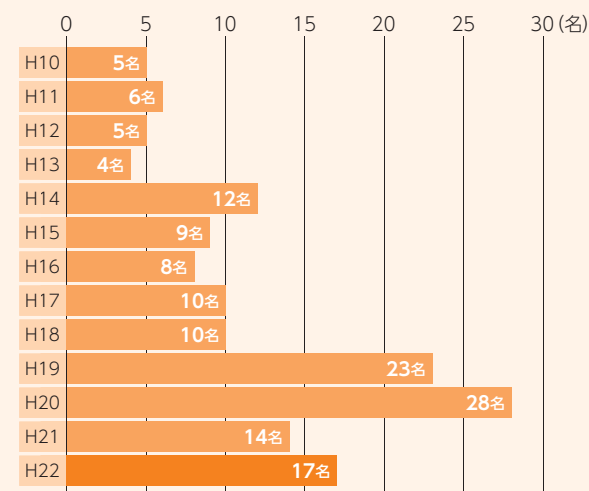
会計学の知識や能力が専門的な職業資格と結びつくものとして、公認会計士(CPA)、税理士、国税専門官などの職業会計人があります。このような会計の職業専門家になるためには、深く広く専門知識を修得し、国家試験に合格しなければなりません。早く試験に合格し資格を取得するためには、効率的で集中的な学習が必要です。そのために最適なものが、会計学科が採用している「会計プロフェッショナル」履修モデルと「 Semester制」です。 Semester制では、専門科目の学習を、週に2回の授業を半期(前期または後期)に受けることでマスターできます。このように短期的に集中して勉強することによって、いわば学習の「ダッシュ力」が自然に身につく、受験にも役立つはず。また、すでに基礎力のある学生の皆さんはセカンド・ステップからスタートすることもできます。試験合格というゴールをめざして、商学部会計学科でスタートしてみませんか。



数多くの公認会計士を輩出する教育体制

会計学科では長年の教育活動と学術的な研究成果にもとづき、体系的なカリキュラムを展開しています。また、課外講座では会計士講座や簿記検定講座など、各種の資格取得に向けた講座も展開しています。こうした教育体制が整備されていることで、専修大学はこれまで数多くの公認会計士を輩出できているのです。

■ 公認会計士試験合格実績



「財務会計」履修モデル

「財務会計」から、ビジネスの全方向に対応するキーパーソンへ

国際化や情報化の荒波に立ち向かっている日本の企業は、英語やコンピュータ(IT)に強い人材と並んで、会計の専門知識を持つ人材を大変多く求めています。そこで会計学科は、会計に強いビジネスパーソンをめざしている学生の皆さんのために、「財務会計」履修モデルを用意しています。ここでは、企業の会計報告書作成の実務に役立つ会計を勉強していきます。

また、将来、金融機関や企業の営業・企画を希望する学生の皆さんにとっても、これらの会計専門家としての実力は、非常に強い武器となります。会計学科で会計スペシャリストへ向かってスタートを切り、将来あらゆるビジネスシーンで活躍するための会計の専門能力をぜひとも身につけてください。



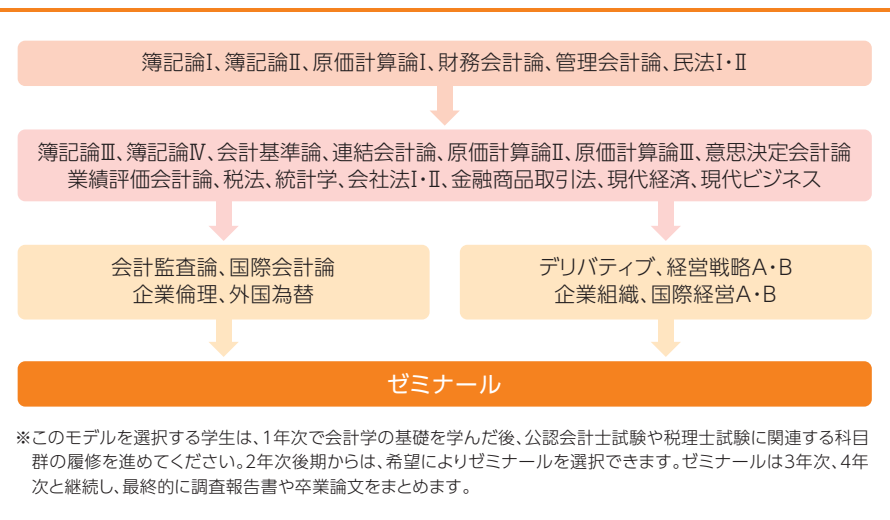
私のゼミ 〈佐々木ゼミナール〉 飯島稔夫さん(4年次)

佐々木ゼミでは、現代財務会計制度を中心に、それを支える理論や歴史的発展過程について学んでいます。といっても、佐々木ゼミ最大の行事である「他大学との討論会」のための現代会計制度の研究が、学習のメインです。そのため年2回のゼミ合宿や、基礎的な会計の知識を身につけるためにパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行っています。人前で自分の担当部分をいかにわかりやすく、見やすく発表するかが求められるのでとても緊張しますが、発表回数を重ねるにつれて徐々に成長している自分が実感できて楽しいです。



佐々木先生は、「会計史」を担当している先生でもあるので、ゼミの間にはさまれる会計史の話には興味をそそられます。他に、東京証券取引所を訪問する恒例行事もあり、会計の視点からたくさんの方が見られるおもしろいゼミです。

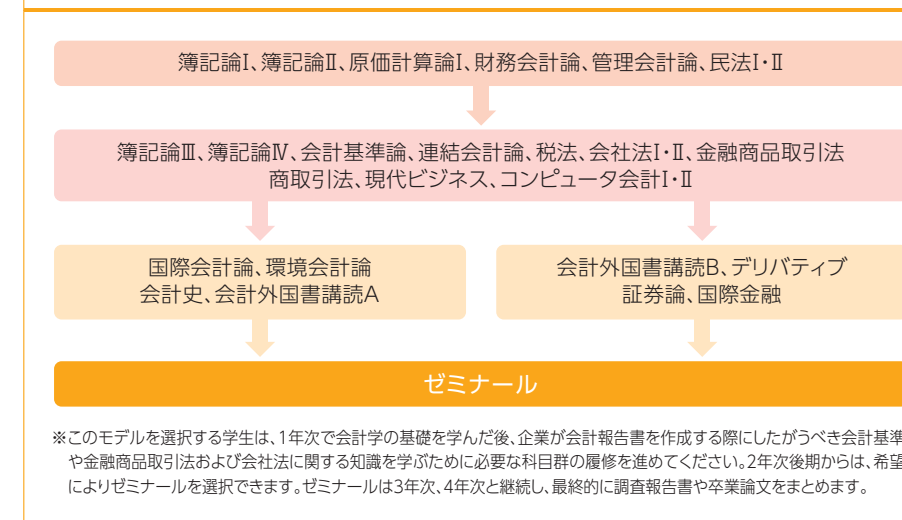
主要科目の履修の流れ



卒業後のイメージ

- 公認会計士
- システム監査人
- 税理士
- 国税専門官 など

主要科目の履修の流れ



卒業後のイメージ

- 企業の経理・財務部門
- 金融機関・保険会社・証券会社
- 企業の国際戦略・IR部門
- 企業の営業・企画 など

「管理会計」履修モデル

企業の将来を設計していく

管理会計とは、企業内部の経営管理者に対して企業の経済的情報を提供することを目的としています。経営管理者は、この情報を戦略策定や経営管理に利用します。そこで、会計学科では、経営者や管理者をめざしている学生の皆さんのために、「管理会計」履修モデルを用意しています。ここでは、企業の戦略策定と経営管理に役立つ会計を勉強していきます。また、将来、経営企画部や経理部予算課・原価管理部を希望する学生の皆さんにとっても、これらの会計専門家としての実力は、非常に強い武器となります。



私のゼミ 〈伊藤ゼミナール〉 佐藤竜太さん(卒業生)

伊藤ゼミでは、会計数値を企業戦略に活かす管理会計の勉強をしています。

例えば2010年度は、BSCという経営ツールがどのように企業で運用されているかを学びました。座学だけでなく、企業を訪問するフィールドワークも行いましたよ。

ゼミの雰囲気は、とても和やかでアットホーム。ゼミ外の活動も多く、合宿やバーベキュー、コンパも結構やっていますよ。

一方、とても自主性が求められるゼミなので、テーマやカリキュラムはほとんどゼミ生が決められています。

ゼミは大学生活でも大きなウェイトを占めます。大学生活を充実したものにするためにも、いろいろなゼミを見学して自分に合ったゼミを探してください。もちろん、伊藤ゼミの見学もお忘れなく!



「財務情報分析」履修モデル

企業のこれからを見通す力を培っていく

企業は会計情報をはじめとする企業活動に関する情報を内外に発信しています。そして、現在、ビジネスのさまざまな局面でこれらの情報を適切に読み取ることが重要になってきています。

そこで、会計学科では、シンクタンクやコンサルティングに従事することをめざしている学生の皆さんのために、「財務情報分析」履修モデルを用意しています。ここでは、企業活動分析に役立つ会計を勉強していきます。



また、将来、企業の企画・戦略策定を希望する学生の皆さんにとっても、これらの会計専門家としての実力は、非常に強い武器となります。

私のゼミ 〈植田ゼミナール〉 鈴木 諒さん(4年次)

植田ゼミは2010年度に発足したフレッシュなゼミです。

発足時のメンバーは3年生8人、さらに2年生7人が加わり(当時)、アカデミックで楽しいゼミ活動を行っています。

テーマは「環境会計」という領域で、企業の環境活動を調べたり、環境会計や生物多様性ガイドライン等の公的文書を読んだりしています。さらにゼミでは、「自分の理解してきたことを他人に伝える力」が求められます。社会に出れば自分の見解を相手に伝え、かつ納得させなければならない局面に出会います。そんな経験を積みみたい方にはオススメです。

ゼミでは環境会計を学びますが、特にその分野が得意である必要はありません。環境問題・環境会計に興味のある方、単に会計に興味がある等々どんな方でも構いません。縁あって専修大学商学部に入学したら、ぜひ植田ゼミで充実した大学生活を送ってみてはいかがでしょうか。



主要科目の履修の流れ

簿記論I、簿記論II、原価計算論I、財務会計論、管理会計論、情報基礎I・II

原価計算論II、意思決定会計論、原価計算論III、業績評価会計論
コンピュータ会計I・II、財務管理論、現代ビジネス・マーケティング

原価管理論、戦略マネジメントコントロール論
会計情報システム論、会計外国書講読C

会計外国書講読D、流通論
経営戦略A、ファイナンスプランニング

ゼミナール

※このモデルを選択する学生は、1年次で会計学の基礎を学んだ後、企業の業務意思決定とその評価、設備投資の決定、事業資金の調達と運用、製造活動の把握など、企業管理者が行う様々な活動に役立つ手法や会計知識を学ぶために必要な科目群の履修を進めてください。2年次後期からは、希望により「ゼミナール」を選択します。「ゼミナール」は3年次、4年次と継続し、最終的に調査報告書や卒業論文をまとめます。

卒業後のイメージ

- 企業の経営管理部門
- 企業の生産管理責任者
- 事業投資の意思決定
- 企業予算の立案 など



主要科目の履修の流れ

簿記論I、簿記論II、原価計算論I、財務会計論、管理会計論、情報基礎I・II

会計基準論、連結会計論、原価計算論II、意思決定会計論、業績評価会計論、統計学、
経営分析論、財務管理論、コンピュータ会計I・II、現代ビジネス、金融論

財務情報分析論、会計情報システム論
金融システム、環境と経営

投資理論、経営数学
プログラミングA、情報システム

ゼミナール

※このモデルを選択する学生は、1年次で会計学の基礎を学んだ後、会計数値を用いながら、企業活動を様々な角度から分析するための手法や会計知識を学ぶために必要な科目群の履修を進めてください。2年次後期からは、希望により「ゼミナール」を選択します。「ゼミナール」は3年次、4年次と継続し、最終的に調査報告書や卒業論文をまとめます。

卒業後のイメージ

- シンクタンク・研究所
- ファイナンスプランニング
- コンサルティング
- 投資顧問 など

